

最近の話題

2) IL-1阻害薬による治療

Treatment with IL-1 inhibitors

南大塚クリニック 院長

Hiroshi Okamoto 岡本 完

Key Words

痛風関節炎, 結晶誘発性関節炎,
インターロイキン-1 (IL-1),
IL-1受容体 (IL-1R),
IL-1Rアゴニスト (IL-1Ra)

Summary

痛風関節炎症例のなかには、非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) やコルヒチンなどの治療薬使用にもかかわらず、痛風発作を繰り返す症例や、合併する疾患や副作用出現の既往などにより、従来の治療薬が使用できない症例が存在する。そこで、このような症例に対する治療薬として新たな治療の選択肢が期待されている。

インターロイキン (IL)-1は、主としてマクロファージ系の細胞から産生される炎症性サイトカインである。痛風関節炎は、尿酸塩結晶が自然免疫機構を介したIL-1前駆体産生亢進と、食食により細胞内に取り込まれた尿酸塩結晶によるNLRP3インフラマソーム活性化により、IL-1 β の産生・分泌されることによって関節炎を発症する。したがって、痛風関節炎発症に重要な役割を果たすIL-1を阻害するIL-1阻害薬は、本邦では未承認であるが、痛風関節炎の治療薬として有望である。

はじめに

痛風は、基礎病態である高尿酸血症が持続した結果として、関節内に析出した尿酸塩が起こす急性の結晶誘発性関節炎である。痛風の治療薬としては、非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)、コルヒチン、ステロイド薬が選択される。しかし、これらの治療薬使用にもかかわらず、痛風発作を繰り返す症例は存在し、また合併する疾患や副作用出現の既往などにより、これら従来の治療薬が使用できない症例も存在する。そこで、このような症例に対する治療薬として新たな治療の選択肢が期待されている。本稿では、本邦では未承認であるが、新たな治療選択肢の可能性の1つであるインターロイキン (IL)-1阻害薬について解説する。

1 IL-1とIL-1R

1. IL-1

IL-1は、主としてマクロファージ系の細胞から産生される内因性発熱物質、Bリンパ球活性化因子として発見されたサイトカインである。成熟型は17kDaの糖